

2014年のリスク局面を振り返る

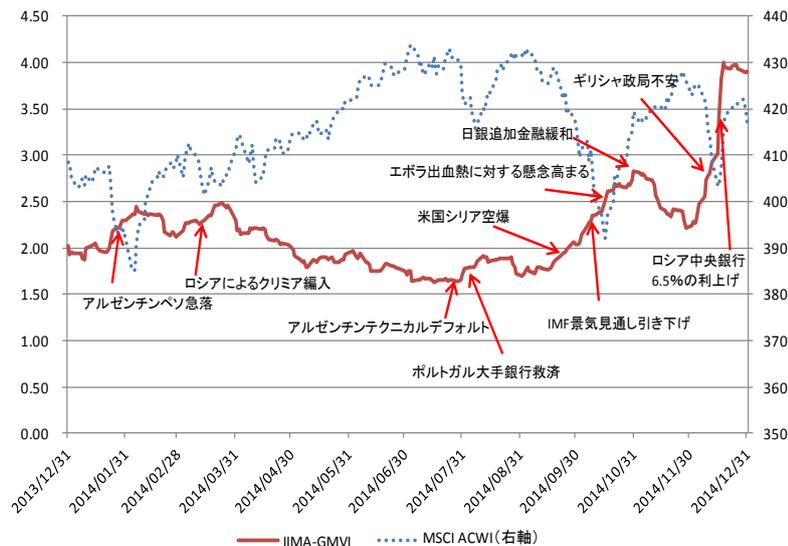
経済調査部 研究員 井上 裕介
inoue@iima.or.jp

2014年の国際金融市場は、年央にかけて落ち着いた展開が続いたものの、年末にかけて徐々にリスクが高まる展開となった。当研究所が公表している IIMA Global Market Volatility Index (以下 IIMA-GMVI)¹ においても、年後半につれて国際金融市場のリスクが高まっていたことを示唆している。

2014年の IIMA-GMVI は、前半は静かであった。1月のアルゼンチンペソの急落を受けた新興国経済に対する懸念の高まりに始まり、ロシアのクリミア編入などウクライナ情勢の悪化、イスラム国設立など中東情勢の悪化、アルゼンチンのテクニカルデフォルト、ポルトガル大手銀行の信用不安、親ロシア派の民間航空機撃墜に端を発したロシアに対する経済制裁などがあつたが、IIMA-GMVI でみると国際金融市場は落ち着いていたことがわかる。

特に4月下旬～9月下旬にかけては、IIMA-GMVI の値が2を下回る水準が長期間続いた。国際金融市場では低ボラティリティが長時間続き、株式をはじめとするリスク性資産価格も堅調に推移した。この時期には内外のメディアを通じて、国際金融市場における長期の低ボラティリティ継続を懸念する報道も見られた。

図表1 2014年のリスク指数と世界株価指数の推移



(出所) 国際通貨研究所、Thomson Reuters

¹ IIMA-GMVIの詳細については当研究所HP (<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>) 参照のこと

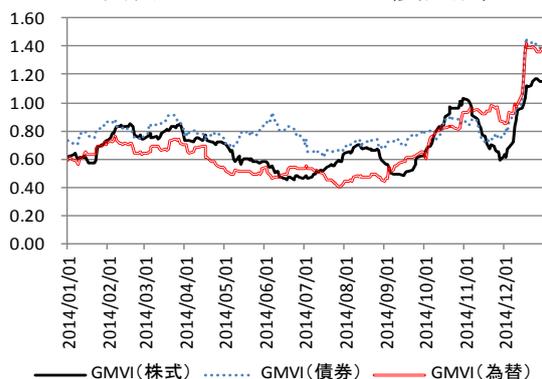
IIMA-GMVI が上昇基調に転じたのは、9 月中旬以降である。この時期は、中東情勢に対する懸念、IMF による世界経済見通しの引き下げ、エボラ出血熱の脅威などから、リスク資産が下落した時期と重なっている。

12 月以降、IIMA-GMVI が大幅に上昇した最大の要因は、原油価格の大幅下落および経済制裁の影響からロシアの国際収支に対する懸念が高まったことを受けてロシア国債やロシアルーブルの値動きが大きくなったことである。図表 3 の通り、12 月に入り IIMA-GMVI (新興国) が、同 (先進国) と比較して急上昇しているのはそのためである。また原油価格下落を受けて資源国を中心に新興国の経済に対する懸念が高まったこと、ギリシャの政局不安や欧州中央銀行 (ECB) による国債買い入れによる量的緩和開始への思惑から、欧州の金融相場の値動きが大きくなったことも一因である。

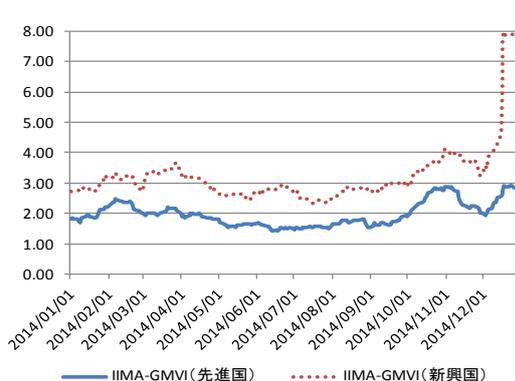
国別ではロシアに加えて、ブラジルも年後半、大統領選挙の動向など政局を巡って金融相場が大きく動いたためボラティリティは大きくなった。

2014 年に発生したリスク要因は、その多くが 2015 年に入った現在でも解消されていないため、上記で挙げたようなイベントが再び国際金融市場のリスク度を急速に高める事態もあり得る。さらに、米連邦準備制度理事会 (FRB) による利上げ開始も予想されており、その影響度によってはリスク度を一層高める可能性があることにも留意が必要だろう。

図表 2 IIMA-GMVI (資産別)



図表 3 IIMA-GMVI (先進国&新興国)



(出所) 国際通貨研究所

以上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2015 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: 3-2, Nihombashi Hongokucho 1-Chome, Chuo-ku, Tokyo 103-0021, Japan

Telephone: 81-3-3245-6934, Facsimile: 81-3-3231-5422

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2

電話 : 03-3245-6934 (代) ファックス : 03-3231-5422

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>